

## カウンセリングマインドとリーガルマインド

### Q3 児童生徒に接していく場合、どのような点に留意すればいいのでしょうか？

「長崎県児童生徒の社会性・規範意識に関する調査報告書（2002年 『長崎県教育センター』）」の冒頭では、以下のような言葉が述べられています。

近年の青少年の傾向として、自然体験や社会体験の乏しさからくる自立性や協調性の欠如、自己中心的なものの見方や考え方、公共的なものや社会的なものへの関心の低下などが言われています。また、基本的生活習慣の欠如、規範意識の低下が指摘されています。そして、夢を持ち、その実現に向けて自ら考え、主体的に課題に取り組む意欲や態度の欠如も憂慮されています。

このような状況の中で、学校教育が担う生徒指導はますます重要になっています。また、小・中・高等学校の各学習指導要領においては、生徒指導に関して次のように述べています。

#### 生徒指導とは

小学校学習指導要領	中学校学習指導要領	高等学校学習指導要領
第1章 第5 2 (3)	第1章 第6 2 (3)	第1章 第6款 5 (3)
日ごろから学級経営の充実を図り、教師と児童の信頼関係及び児童相互の好ましい人間関係を育てるとともに児童理解を深め、生徒指導の充実を図ること。	教師と生徒の信頼関係及び生徒相互の好ましい人間関係を育てるとともに生徒理解を深め、生徒が主体的に判断、行動し積極的に自己を生かしていくことができるよう、生徒指導の充実を図ること。	教師と生徒の信頼関係及び生徒相互の好ましい人間関係を育てるとともに生徒理解を深め、生徒が主体的に判断、行動し積極的に自己を生かしていくことができるよう、生徒指導の充実を図ること。

(1998年 文部省)

いずれも、今日的な課題とこれからの方向性を示すものとして常に念頭に置きたいものです。なかでも各指導要領に共通する「教師と児童生徒」「信頼関係・人間関係」「児童生徒理解」という言葉は、生徒指導を考える上での重要なキーワードとなっています。

これらからも生徒指導が教師側からの一方的な指導ではなく、児童生徒自身または児童生徒相互の内発性を重視した指導の充実を図っていかなければならないことが分かります。

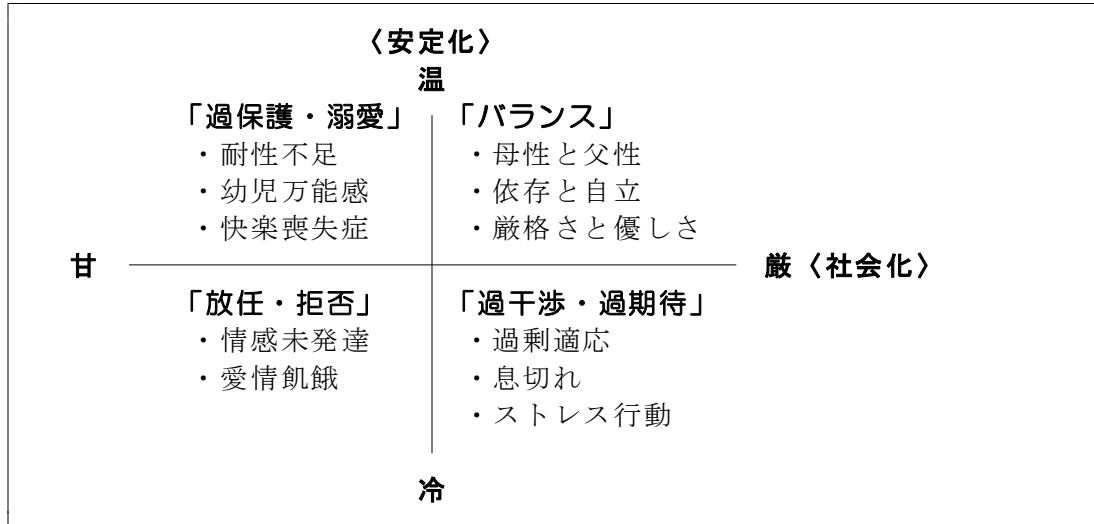
さらに、ここには、「事後的－問題対応志向」から「予防的・開発的志向」への具体的な取組が期待されているのであり、その前提として教育相談（カウンセリングマインド）の視点が要求されていると考えられます。

## 教育相談と生徒指導のバランス

それでは、教育相談や生徒指導の考え方に基づいて教師が児童生徒に接する場合、どのような姿勢や態度が望ましいのでしょうか。

「カウンセリングマインド」と「リーガルマインド」という二つの概念をあげて説明します。

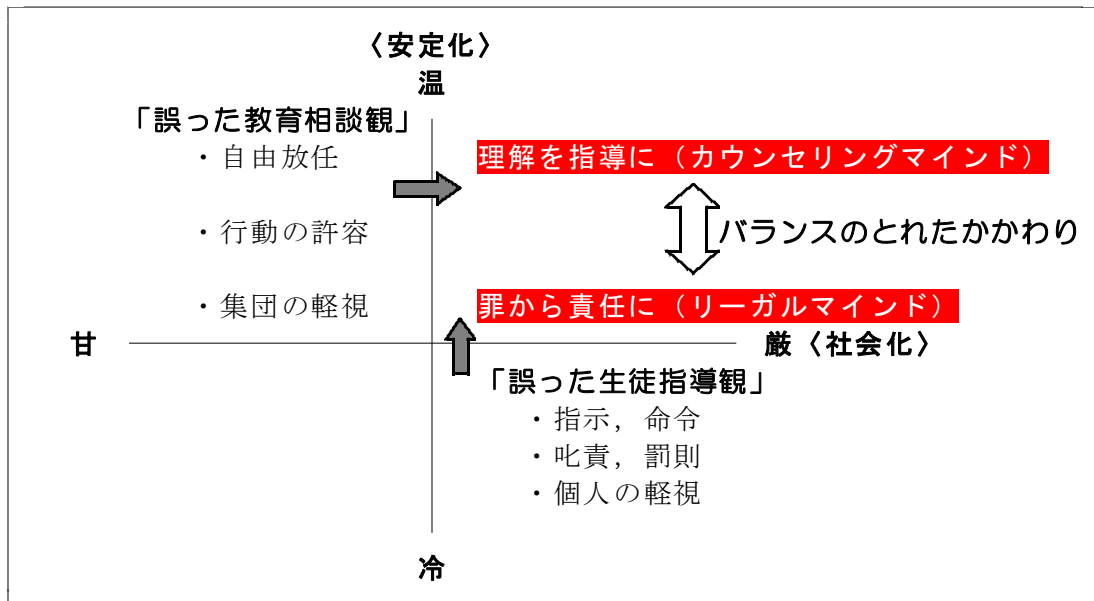
下の図を見てください。



『生徒指導担当教師のための教育相談基礎の基礎』 嶋崎政男著 学事出版」より

縦軸は、愛情を持って子供の心を「癒す軸」。横軸は、社会人として自立できるように基本的資質を「しつける軸」です。この二つの機能の組み合わせによって、「過保護・溺愛」型、「放任・拒否」型、「過干渉・過期待」型、「バランス」型に分けることができます。

これを教育相談、生徒指導ということで考えていくと、下の図のようになります。



『生徒指導担当教師のための教育相談基礎の基礎』 嶋崎政男著 学事出版」より

「カウンセリングマインド」とは、「受容と共感」を基本に据えた、いわば「母性原理」と考えることができます。また、「リーガルマインド」とは、「正義と責任」を意味する「父性原理」と解釈することができます。つまり、この二つを調和することが、教師の目指す姿勢や態度であると言えます。

「カウンセリングマインド」と「リーガルマインド」のバランスを図りながら、児童生徒を指導・援助していく過程を、図に示すと次の図のようになります。

